

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。（Since 2006）

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	2
➤ 多自然川づくりサポートセンターからのお知らせ	5
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ・冊子の紹介	6

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー「小さな自然再生」現地研修会（全3回）の開催予告

9月より企画調整に着手した「小さな自然再生」現地研修会（主催：「小さな自然再生」研究会、研究会幹事：JRRN）ですが、関係者の多大なるご協力により、全3回の開催予定（開催日時・開催場所）がほぼ定まりました。

現在、各研修会のプログラム等の詰めの調整を行っておりま

すので、詳細が定まった研修会より、参加者募集のお知らせをJRRN ウェブサイトやニュースメール等を通じてご案内します。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、これまでより人数を制限しての開催となりますが、小さな自然再生にご興味のある方は是非ともご参加ください。

第9回「小さな自然再生」現地研修会 ～事前モニタリングで学ぶ土砂移動～（仮題）

◆日時： 2020 年 11 月 13 日（金）

◆場所： 愛知県名古屋市中区・矢田川 ※調整中

河川環境改善を目的とした工事が予定されている現場において、河道内地形の事前モニタリングの評価ポイント、川の変化の履歴や洪水頻度、土砂移動等について座学と現地調査で学びます。



第10回「小さな自然再生」現地研修会 ～多自然をモニタリングする～

◆日時： 2020 年 11 月 24 日（火）

◆場所： 秋田県大仙市・斉内川

2018年10月に設置した2基のバープ工周辺の河道内地形変化や生物生息状況を座学と現地実習を通じて評価し、川づくりのモニタリングについて参加者とともに学びます。



第11回「小さな自然再生」現地研修会 ～森と川の繋がりを考える～

◆日時： 2020 年 11 月 28 日（土）

◆場所： 京都府南丹市美山町芦生・美山川

魚類、またその餌となる水生昆虫を増やしていくことを目指し、森と川のつながりについて座学で学び、小魚や水生昆虫の餌場となる石積みによる「落ち葉だまりづくり」を参加者で実演します。



(JRRN 事務局・和田彰)

10 月



(<https://upload.wikimedia.org/wikipedia/ja/5/53/Kema-riv.JPG>)より引用



あの日のあの川
リレーDiary

あの日のあの川 リレー日記 ～第 52 話～



みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第 52 話主人公 鈴木雄大

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川（直）研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：埼玉県高麗川)

「少年時代」

いつのこと？：小 1 ～中 1

どこの川？：高麗川

私の少年時代の思い出である高麗川は埼玉県南西部から中部にかけて流れる荒川水系の一級河川で、越辺川の支流です。

私は小学校 1 年生から中学 1 年生の間の 7 年間の間をこの高麗川が流れる坂戸市の西坂戸という地区で過ごし、育ってきました。中学 1 年から 2 年に進級するタイミングで転校することになったため、この地域で過ごしたのは 7 年となっていました。私の最も大切に思っていて温かった日々はこの地域で過ごした 7 年の日々でした。そんな私にとっての大切な場所に流れていて、少年時代の私の遊び場だったのがこの高麗川でした。

高麗川は私にとってとても身近な場所にありました。小学校と中学校のすぐそばに橋があり、その下に高麗川が流れていました。小学校の校歌にも「光る高麗川見渡せば」という歌詞がありました。また、小学校の卒業式での掛け合いでは「キラキラと輝く高麗川の流れ」というセリフがありました。それくらい私の生活のすぐそばに高麗川は流れていました。

小さい頃の私は昆虫採取や魚取り、釣りなどの遊びが大好きでした。そんな私はよく父親に連れられ近くの高麗川に出かけては、網と釣り竿を持って川に住む生き物を観察していました。

ガサガサ(網での生物採取)では、アブラハヤ、オイカワ、カワムツ、ウグイ、モツゴ、ヨシノボリ、コイ、フナ、シマドジョウ、ドジョウなどが良く取れたのを覚えています。レアな種類としてナマズ、ギバチ、カジカ、カマツカ、カムルチーなどが取れることもありました。さらに本当に激レアな部類に当たるとは思いますが、一度だけスナヤツメが取れたこともありました。水生昆虫では水カマキリやタイコウチが偶に取れました。あとはヌマエビとスジエビ、アメリカザリガニやサワガニなんかも沢山いましたね。クサガメもよくいました。また、釣りではオイカワとカワムツがよく釣れたのを覚えています。婚姻色がとても綺麗な魚たちです。

こんな形で冬以外の季節は頻繁に川に出かけて生物観察をしていたので、高麗川の生態系に詳しくなっていました。同級生にはお魚博士なんてあだ名をつけられたこともありましたね。懐かしい思い出です。今振り返ってみると、これだけ多くの生物が暮らしていたということは栄養豊かで綺麗な川だったのだらうなと思います。

高学年になるに連れて、友達と川で遊ぶ機会も増えました。友達たちとガサガサや釣りをしたり、河原で水切り合戦をしたり、後は夏暑い日にみんなで泳いだり、天然の飛び込み台から飛び込んだりして遊んでいました。

今思えば、高麗川での掛け合い遊びを通して仲を深めた友人も多くいたなと感じます。人の少ない田舎町でしたが、自然は沢山ありました。そうした美しい自然の中で遊ぶことで小さいことなどどうでも良くなり、ただ単に楽しかったという思い出が共有されていく。そんな形で私たちは仲を深めていったのだらうと思います。

そんなこんなで川と共に育ってきた私でしたが、家庭の事情で中学 1 年の終わりに引っ越すことになってしまい、私はこの地域を去りました。ですが、この地域で過ごした 7 年間はかけがえのない宝物であり、この地域は私の故郷です。そして、その故郷には高麗川が流れているのです。もしかしたら、美しい自然と私の思い出が沢山詰まった高麗川が、「その地が私の故郷だ」と、私に思わせるのかも知れません。そんな高麗川があったからこそ、「あの 7 年は宝物だった」と感じることもできるのかも知れません。

あれからもう 9 年が経ちました。あの美しかった高麗川は、私の少年時代の思い出と共に姿を変えずに流れているだろうか。とても気になってきました。考えてみればあれからまだ 1 度も訪れていないのです。大学在学中に 1 度足を運んでみようと思います。埋め立てられたりしていないといいのですが…。ちょっと不安ですね。ただ、あの頃の美しい姿を保っていて欲しいと願わずにはいられないですが例えそうでなかったとしても、訪れさえすれば、私の少年時代の思い出が高麗川の流れと共に私の中に流れ込んでくる、それは確かなことのように感じられます。

(次は松永智也さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.137

岡村幸二 (JRRN 会員)

隅田川晴れやかに：
中央大橋のランドマークに向かい 佃大橋から隅田川上流を望む



撮影：2020 年 9 月（東京都中央区・隅田川）

◆東京ウォーターフロント開発のさきがけ

大川端リバーシティ 21 開発事業は、中央区佃 2 丁目を中心に三井不動産と住宅・都市整備公団（現：都市再生機構）、東京都住宅局（現：都市整備局）などが官公民共同開発方式で 1986 年に着工しました。

◆隅田川で最も美しい水辺景観のひとつ

隅田川と隅田川派川に囲まれた対象地は、水際はスーパー堤防によって親水性の高い空間が実現しています。30 年以上たつて佃公園や石川島公園の樹林の緑が繁茂しています。

■ 連載『水辺からのメッセージ』のバックナンバーは JRRN ホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube>

「多自然川づくりサポートセンター」からのお知らせ *Nature-oriented River Management Support Center*

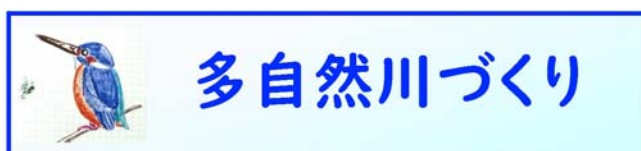
※『多自然川づくりサポートセンター』は、多自然川づくりについての技術的な支援、市民との連携の強化、気軽な相談窓口、情報の共有等を担い、（公財）リバーフロント研究所が事務局を務めています。JRRN は多自然川づくりサポートセンターと連携して川づくりの推進に取り組んでまいります。

『多自然川づくり』に関わる参考情報を集約したウェブページをリニューアルしました！

多自然川づくりサポートセンター事務局

多自然川づくりに関わる技術指針や事例集、また機関誌での関連特集記事を集約した多自然川づくりのウェブページを更新しました。更に情報を充実させていきますので、皆様にご活用頂ければ幸いです。

<http://www.rfc.or.jp/theme04-2.html>




**公益財団法人
リバーフロント研究所**

[お問い合わせ](#)
[アクセスマップ](#)
[ENGLISH](#)

[ホーム](#)
[研究所について](#)
[研究テーマ](#)
[活動成果](#)
[リンク](#)

研究テーマ

生態系サービス享受する流域社会構築の支援

[多自然川づくり](#)

[＞他の研究テーマを選ぶ](#)

近年、温暖化の影響で激甚な水災害が頻発しており、従来にも増して治水と環境を調和させた「多自然川づくり」の必要性が増えています。当研究所では、多自然川づくりの検討に関する豊富な実績・技術を生かし、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境、並びに多様な河川景観を保全あるいは創出するための「多自然川づくり」の技術的な支援・情報共有等を行っています。

- ▶ [太河川における多自然川づくり ～Q A形式で理解を深める～ \(R2.3\) *](#)
- ▶ [中小河川の河道計画の技術基準（概要）](#)
[H20.3策定部分（川の骨格づくり）*](#) [H22.8追加部分（水際構造）*](#)
- ▶ [多自然川づくりポイントブックⅢ説明資料（H22）*](#)
- ▶ [多自然川づくり参考事例集（H21）](#)
- ▶ [多自然川づくり優良事例集「多自然川づくりのすがた」（H30）*](#)

*：国土交通省水管理・国土保全局HPにリンクします。

▶ 機関誌「RIVER FRONT」の多自然川づくりに関する特集記事（過去10年分）

- [「RIVER FRONT」Vol.88（2019年2月発行） 特集：災害と多自然川づくり](#)
- [「RIVER FRONT」Vol.85（2017年9月発行） 特集：設立30周年記念](#)
- [「RIVER FRONT」Vol.84（2017年3月発行） 特集：河川環境のモニタリング](#)
- [「RIVER FRONT」Vol.83（2016年9月発行） 特集：生態系ネットワーク](#)
- [「RIVER FRONT」Vol.80（2015年3月発行） 特集：水辺の小さな自然再生](#)
- [「RIVER FRONT」Vol.78（2014年2月発行） 特集：河川における外来種対策](#)
- [「RIVER FRONT」Vol.76（2013年3月発行） 特集：河口干潟再生](#)
- [「RIVER FRONT」Vol.73（2012年2月発行） 特集：多自然川づくり](#)
- [「RIVER FRONT」Vol.72（2011年9月発行） 特集：世界の河川・流域再生](#)
- [「RIVER FRONT」Vol.71（2011年5月発行） 特集：自然再生（その2：河原再生）](#)
- [「RIVER FRONT」Vol.70（2011年1月発行） 特集：自然再生（その1：湿地再生）](#)

▶ 多自然川づくりサポートセンター
多自然川づくりについての技術的な支援、情報の共有等を行っています。
お問い合わせはメールにてお願いします。

問い合わせ： tasizen@rfc.or.jp （※☆を@に変えてご利用ください）

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2020年8月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■『巡回展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～」 COVID-19 感染防止対策をしながら開催していきます！』

「水の巡回展ネットワーク (jawanet)」は、大学の学生や教員、気象キャスター、展示プランナーやデザイナー、国土交通省の職員等の有志のメンバーで構成され、水に関する様々なテーマの展示ユニットを開発し、それらを各地の展示館に巡回しながら、多くの場所で活用できる、汎用性の高い、楽しく学べる展示を創造していくことを目的に活動している団体で、JRRN も本活動に協働しています。

コロナ禍においても非接触で楽しめる展示方法などを検討しながら、企画展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～」の巡回を再開しております。感染防止対策をとりながら、パネルや映像、標本や模型、非接触のインタラクティブ展示のみで構成しておりますので、多くの皆様のお越しをお待ちしております。

<今後の巡回展示予定>

○川の駅「はちけんや」(大阪) : 2020年9月4日(金)～10月18日(日)

○虹の下水道館(東京) : 2020年10月24日(土)～11月15日(日)

◆詳細はこちらから : <http://www.a-rr.net/jp/jawanet/info/ame/top.html>

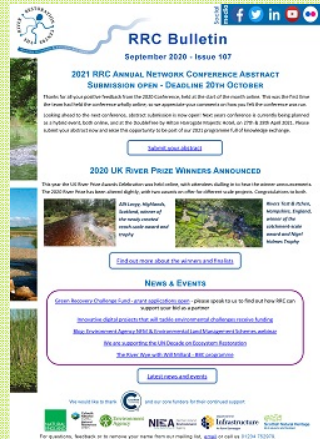


【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) 最新会報」紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2020年9月号) が事務局より届きました。

本号では、2021年のRRC年次講演会の発表受付、2020年の英国河川賞発表、また英国における河川再生に関わる行事やニュースが紹介されています。



◆詳細は以下参照

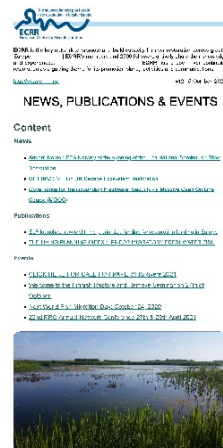
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3743.html>

【海外からの提供情報】

■「ECRR (欧州河川再生センター) 最新 eNEWS」紹介

ECRR (欧州河川再生センター) の月刊 eNEWS 最新会報 (2020年10月号) が届きました。

本号では、ノルウェー環境庁主催「第11回河川セミナー」や国連生態系再生戦略の案内、出版案内として再生事業の資金優先順位決定支援ツールや回遊性淡水魚の生息計画指数について、また欧州で予定されている河川再生に関わる行事情報が紹介されています。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3726.html>

冊子の紹介 Publications

■ できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 第2集



市民が河川や水路の管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集の続編 (第2集) の印刷製本版を普及中です。

本事例集は、水辺の小さな自然再生に取り組む全国の担い手の皆さまに、活動の経緯や目的、実施体制、工法の説明や工夫した点、使用材料や工具、施工後の維持管理や利活用の工夫、活動の効果やキーパーソンなどを執筆頂いたものです。

- 編集 : 「小さな自然再生」研究会
- 企画・構成 : 吉富友恭 東京学芸大学環境教育センター
- デザイン : 本間由佳 明星大学 デザイン学部 デザイン学科
- 発行 : 日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- 発行年月 : 2020年3月

■上記冊子の入手方法はこれから : <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1149.html>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

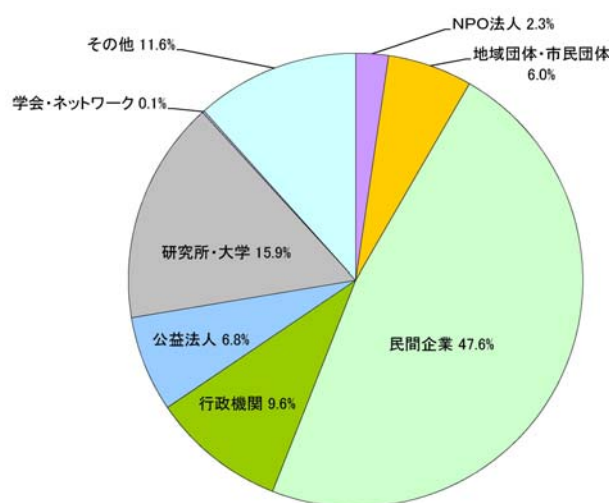
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2020 年 9 月 30 日時点の個人会員の所属構成

(個人会員数：810 名、団体会員数：60 団体)

※9 月の新規入会数：個人会員 2、団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>